

労働者協同組合法
成立記念作品

人は人のために働いて
支え合い、
人のために死ぬ。
結局はそれ以上でも
それ以下でもない。

これは人間の仕事である。

横浜戸塚上映会場：横浜市男女共同参画センター横浜 ホール

中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは！

2/14（土）14：00-16：00

参加費 一般 1,000 円 大学生 500 円 障がい者・高校生以下無料

医師中村哲の 仕事・働く というこ

語り：室井滋 朗読：塚本晋也

写真映像提供：ベシヤール会 / PMS

企画・提供：日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会センター事業団

一般社団法人 日本社会連帯機構

制作：日本電波ニュース社 HD / 16:9 / カラー / 47分

医師中村哲の
仕事・働く
ということ

アフガニスタンとパキスタンで、
病や戦乱、そして干ばつに
苦しむ人々のために
35年にわたり
活動を続けた男がいた。

1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一読めぬ一線は「現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと」である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない」荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。

親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。

中村医師は言う「これは人間の仕事である」

「長期にわたって中村さんに密着した映像は、中村さんとの信頼の証だ。中村さんは無念の死を遂げたが、この中に生きている。」

上野千鶴子氏（社会学者、東京大学名誉教授）

2/14（土）14：00- ※ 30分前より受付/開場

会場：横浜市男女共同参画センター横浜 ホール 定員350名（先着順）

JR・横浜市営地下鉄戸塚駅下車 徒歩5分 ※駐車場に限りがあるため、お越しの際は公共交通機関をお使いください。

参加費一1,000円 大学生500円 障がい者・高校生以下無料

映画上映(47分)後アフタートークを予定

「中村哲の取り組みから学ぶ、誰もが参加できる地域づくり」

【【申込方法】下記にご記入しFAX(045-260-5558)又は下記QRコードよりお申込みください

お名前			
電話番号		Mail	
他観覧者氏名			



主催：労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団神奈川事業本部 共催：（一社）日本社会連帯機構
（お問い合わせ） ☎ 045-341-4192 電話受付時間：平日11:00~16:00

後援：横浜市 横浜市教育委員会

WORKERS' COOP